

質的研究・文化心理学の交差点

ーヤーン・ヴァルシナー教授を迎えてー

人は、さまざまな文化社会的な状況を身にまとい、時間とともに生きる存在です。そうした人のライフ（生命・生活・人生）を捉えることに、質的研究は重要な役割を果たしているといえるでしょう。それでは、人が文化をまとうとは、時間とともに在るとは、一体どういうことなのでしょう。文化や時間に焦点をあてることによって、なにがどのような有り様として見えてくるのでしょうか。このたび、アメリカ・マサチューセッツ州クラーク大学よりヤーン・ヴァルシナー先生をお迎えし、質的研究と文化心理学とがどういう位置関係にあるのか、そして、そうしたフレームを通すことによって、人の言動や、変わりゆくものと変わらないものが、どのように見えてくるのかを考えてみたいと思います。キーワードは、文化心理学、時間、語り、そして自己。それぞれのご関心に引き寄せて、人のライフに貢献できるような、なんらかの実りを持ち帰っていただければ幸いです。どうぞふるってご参加ください。

■13:00~14:00

講演 ヴァルシナー、初の日本語訳『新しい文化心理学の構築：〈心と社会〉のなかの文化』（新曜社）出版記念！

文化心理学の可能性

“Culture in Minds and Societies”

ヤーン・ヴァルシナー（クラーク大学）

【日時】

2012年12月24日 月・祝

13:00~16:00

【会場】

立命館大学 衣笠キャンパス
創思館 1 階 カンファレンスルーム

【企画】 サトウタツヤ（立命館大学文学部）

安田 裕子（立命館大学衣笠総合研究機構）



■14:00~14:10 休憩

■14:10~15:30

シンポジウム

日本における質的研究の カッティングエッジ

話題提供

- サトウタツヤ（立命館大学）
「文化心理学における理論の役割
ー形態維持と発生の三層モデルの意義」
- 安田 裕子（立命館大学）
「時間のなかで重層化する不妊当事者の自己語り
ー不定、変容の循環のなかで」
- 白井 利明（大阪教育大学）
「時間的展望からみた人生構築」

司会：田垣 正晋（大阪府立大学）

指定討論

- 森岡 正芳（神戸大学）
- やまだようこ（立命館大学）
- ヤーン・ヴァルシナー（クラーク大学）

■15:30~15:40 休憩

■15:40~16:00 議論

※ 講演は英語で行われますが、日本語の概説が付きまします。
シンポジウムは日本語で行われます。

参加
無料

お問い合わせ 立命館大学生存学研究センター事務局

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

TEL: 075-465-8475 FAX: 075-465-8245 ars-vive@st.ritsumeikan.ac.jp

【主催】立命館大学生存学研究センター

日本学術振興会 科学研究費補助金 若手研究A「不妊夫婦の喪失と葛藤、その支援ー見えにくい選択経路を可視化する質的研究法の応用的展開」（研究代表者：安田裕子）

【共催】「ナラティブと質的研究会」（代表：やまだようこ）

日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究A「多文化横断ナラティブ・フィールドワークによる臨床支援と対話教育法の開発」（研究代表者：やまだようこ）

【後援】日本質的心理学会



※ 駐車スペースがございませんので、ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。